

JICA横浜 海外移住資料館オンラインセミナー

第五回JICA海外移住「エッセイ・評論」部門最優秀賞受賞者講演

ボリビア・リベラルタとともに生きた日本人－下瀬甚吉－

写真：リベラルタのマドレ・デ・ディオス川とベニ川の合流地点の眺望と渡し舟（Ponton）（杉浦篤氏撮影）

講師

大島 正裕 氏

立教大学ラテンアメリカ研究所研究員
第五回JICA海外移住「エッセイ・評論」部門最優秀賞受賞者

Zoom Webinar
事前登録制
定員500名



講師略歴

2006年、青山学院大学大学院博士課程文学研究科史学専攻標準年限修了。2001～2004年、在グアテマラ日本国大使館専門調査員。2006年から一般財団法人日本国際協力システムに勤務。2014～2017年、在ボリビア日本国大使館一等書記官（開発協力班）。明治大学島嶼文化研究所客員研究員及び青山学院大学非常勤講師。専攻は、ラテンアメリカ近現代史、日本人移民史。編著書に『ボリビアを知るための65章』（明石書店、2025年）。論文に「1910～20年代前半のボリビア・リベラルタにおける日本人協会の機能と課題－「リベラルタ日本人協会議事録」の分析を中心に－」、『立教大学ラテンアメリカ研究所報』第53号。「ボリビア・リベラルタとともに生きた日本人－下瀬甚吉－」で第五回JICA海外移住「エッセイ・評論」部門最優秀賞受賞。

講演内容

20世紀初頭のボリビア・アマゾンには、ペルーから移動してきた多くの日本人が、ゴム産業で一攫千金をあてようと移住してきた。特にベニ県のリベラルタには多くの日本人が集まり、1918年には700名もの日本人が住んでいたとされる。当時リベラルタは、ゴム産業の中心地として栄え、日本人はゴム採取人、市内の小売店、あるいは郊外の農作業に従事し、町の中でもプレゼンスが高かった。

この中に山口県出身の下瀬甚吉という人物がいた。慎み深く謙虚な甚吉は、ゴム景気が傾き、多くの日本人が町から流出した後もリベラルタに残り、地元社会と折り合いながら、忍耐強く日本人のプレゼンスを高めていくのに努力した。厳しい時代も生き抜いたリベラルタの下瀬甚吉-ボリビアの有名な詩人ペドロ・シモセの父-に焦点を当て、地元社会に溶け込もうとしたある日本人の横顔を紹介する。



▲受賞作品は
こちらから

2025年 **11月19日 水**
19:00～20:30



JICA横浜 海外移住資料館



045-663-3257



jomm02@jadesas.or.jp

参加登録用URL https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_6k_LHXiHRu-WwwrW8A8faQ